

カトリックセンターでは、たくさんの人々が多岐にわたるご奉仕をしています。
この度のアヴィニオンでの活動報告をリヨン在住のベス麻里さんにさせていただきます。

MEP Lauris (アヴィニオン近郊)を訪ねて

ベス麻里

2月末の4日間、ベルトラン神父様の依頼で、田中万里子さん、飯野栄治郎さん、蓉子さんと私は、南フランスのリュベロンにあるロリス村を訪ねた。ここにはパリミッション会のお年寄りの家がある。ベルトラン神父様はそこで、引退なさった神父様方の世話をなさっている。私たちは、そこで働く従業員の単位習得(準看資格取得)に協力するため、日本のお茶とお花の紹介をする事になっていた。

パリから、飯野さんご夫妻が、田中さんを伴い、お茶とお花の道具一切合財を車に積んでリヨンに来られ、私をひろい、目的地には24日(日曜)に到着した。近代的で快適なお年寄りの家は、ロリス村の高台に建てられ、すべての個室からは、中世の村の屋根や、遠くに広がる森や山の美しい景色を展望できるように建造され、とても心地よい環境だった。



翌日の25日、会場を日本の小物で飾り、着物に着替え、神父様方のお昼寝の終わった15時から、田中さんが茶道の講義を始めた。日本のお茶の歴史、一期一会を大切にす茶道の精神を説明したあと、来てくださった30人ほどの方一人一つに、お菓子を配り、お茶を手渡し味わって頂いた。アジアの国々で、長年お茶に親しんだ神父さま方はおいしそうに飲んでくださり、質問も活発だった。

26日(火曜)はお花の講義を行った。養老院の庭で枝物を探し、隣村の花屋で春の花を調達し、いくつもの花瓶に花を活けて会場の準備した。田中さんは、御堂用の巨大な花瓶に、大ぶりのアーモンドの枝を活けてみせた。神父様方は始まる前からやってきて、部屋一杯の花を楽しそうに眺めておられた。

講義では、生け花のアレンジの説明のあと、有志の方に出してもらい、実習してもらった。この実習は、ここの職員の女性たちに大好評で、飛び入り参加希望者は多かった。花の量は少なくとも、豪華な美しさをかもし出す生け方が、彼女らを魅了したと思う。



私はお手伝いしながら、お茶の精神を思い出し、活け花の美しさを味わい、かえって多くのことを学ばせて頂いた。また、この施設に泊まり、神父さま方と3度の食事や、夕方のミサを分かちあえたことも、素晴らしい経験となった。異国で布教に尽くし、体が不自由になられて祖国に戻り、人生の晩秋を南仏の小さな村で暮らす神父様方のお心は、私などには計り知れないが、祈りながら静かに暮らす彼らの姿は美しかった。

最後に、私たちを暖かく迎えて下さり、すべて滞りなく進むよう心を砕いてくださったベルトラン神父様に感謝したい。

